



漱石山房記念館だより

CONTENTS

特集 【インタビュー】 ゲームでひろがる文学の可能性 2
『文豪とアルケミスト』プロデューサー 谷口晃平氏
漱石山房記念館所蔵資料の紹介 No.2 5
松岡譲あて芥川龍之介はがき(松岡・半藤家資料)
特別展報告 6
活動報告 7
INFORMATION 8



令和元年12月15日発行



漱石山房記念館外観



竹あかり



ゲームでひろがる文学の可能性

インタビュー

interview

『文豪とアルケミスト』
プロデューサー
谷口晃平氏



——『文豪とアルケミスト』は、近代文学の文豪たちが転生し、本の中の世界を破壊する「侵蝕者」と闘う、というゲームです。現在ダウンロード数が百万を超え、若い女性を中心に大変な人気を博しているそうですね。谷口さんは『文豪とアルケミスト』の発案者でいらっしゃいますが、どのようにしてこのユニークな発想を得られたのでしょうか。

谷口 今から四年ほど前、弊社（ゲームを提供している合同会社 DMM GAMES）では『艦隊これくしょん』や『刀剣乱舞』といった歴史をモチーフにするゲームが大ヒットしたこと、同様のゲームをもっと作ろうという機運が高まりました。そんな中、僕もプロデューサーとして新しい企画を求められ、色々と考えた末に「文学」はどうだろうと思いついたのです。これはもう単純に僕が近代文学を好きだから出たアイデアなのですが、当初は「文豪」というより、芥川龍之介の作品をゲームにするつもりでした。僕は芥川の愛読者で、とりわけ「歯車」が好きなんです。そこでデザイナーに「これを元にキャラクター・デザインをしてみてくださいか」と依頼したところ、結構いいもの

が出来上がってきたので、ちょっとテンションが上がりまして（笑）、それじゃあこれでゲームを作ろうという話になったのがきっかけでした。

——つまり、最初は今とは全くスタイルが異なるゲームを考えていらっしゃったのですか？

谷口 そうですね。ですが、社内でプレゼンをするうちに文学作品をそのままモチーフにするのはさすがにハードルが高いのではないかと意見が出て、そこから四ヶ月ぐらい揉んだ結果、「文豪」が出てくるゲームにしようという話に落ち着きました。さらに、文学に興味があるのはやはり女性が多いだろうとの予測から、最終的に「男性文豪がキャラクターとして登場する女性向けゲーム」という枠組みに収まったのです。

——登場する文豪たちは、顔かたちこそアニメ的な絵柄であるものの、言動や衣装には実際の個性が強く反映されています。

谷口 『文豪とアルケミスト』のキャラクターは、後世の人たちが文豪たちの作品や逸話から思い浮かべる人物像に影響されて転生したらどうなるか、という発想で作られています。ですから、夏目漱石はダンディな紳士風、森鷗外は軍人っぽいスタイルである一方、宮沢賢治や新美南吉といった児童文学作家は子どもの姿をしているのです。また、生前好きだったものをデザインに落とし込んでいるので、正岡子規は右手に本を持ちながら左手では野球バットを担ぐ姿になっています。その手の「小ネタ」は姿形だけでなく、ゲーム中の文豪同士の会話やイベント内容にも様々な形で反映させているんですよ。特に重視しているのは文豪同士の関係性です。

——ファンに好評だった関係性に関する「小ネタ」はありますか？

谷口 影響が大きく感じられたのは志賀直哉と小林多喜二のエピソードでしょうか。小林多喜二が亡くなった折、他の文豪たちが当局の目を気にしてだんまりを決め込んだの

に、志賀直哉だけは表立って追悼の意を示しました。その逸話を元に、多喜二がそれを知ったらどうなるかを想像して作成した会話が好評だったので、とてもうれしかったですね。そんな風に史実を元にしながら、色々想像をたくましくしてゲーム作りをしています。



Profile

谷口晃平 (たにぐち・こうへい)

昭和 53 (1978) 年、岐阜県高山市生まれ。ゲーム『文豪とアルケミスト』プロデューサー。東京でシステムエンジニアとして就労後、平成 23 (2011) 年 8 月、株式会社 DMM.com ラボ (現 合同会社 DMM GAMES) 入社を機に石川県に移住、平成 28 (2016) 年、プロデューサーとして『文豪とアルケミスト』をリリース。

——つまり、文豪の作品や人となりを知れば知るほどより楽しめるゲームになっているわけですね。

谷口 僕自身、その手の「発見の楽しみ」があるゲームが大好きなんですよ。「文豪とアルケミスト」の根底には、近代文学の面白さを文学ファン以外にも広く知ってもらいたいという願いがあります。ですので、ゲームキャラとして気に入った文豪の作品を読んでみようとするユーザーが増えていることがとてもありがたいですし、さらに一歩踏み込んで記念館などにも行く方が増えたと聞くとうれしく思います。僕たちもゲーム制作にあたっては各地の文学館を訪れて資料探しをしたので、行けば絶対に「あ、これはあのエピソードの元ネタだ！」と気づくような展示にぶつかるはずですよ。何かしら発見があると思うので、どんどん足を運んでもらいたいですね。

——今夏、当館でタイアップイベント「文豪とアルケミスト×新宿区」を開催した際にはたくさん『文豪とアルケミスト』ファンが来館されましたが、みなさんタイアップイベントだけでなく通常展も熱心にご覧になっていましたし、少なからぬ方々が漱石作品の書籍を購入していかれました。私どもとても喜ばしく思っています。

谷口 ゲームをリリースする前は文豪をアニメ風にキャラクター化することに対して賛否両論あるだろうなと思っていました。でも、いざ蓋を開けてみると文学研究者や文学館の学芸員といった方々の多くが好印象を持ってくださったようで、ほっとしています。

——ところで、今日はインタビュー前に館内をご覧頂きましたが、どのような感想をお持ちになりましたか？

谷口 漱石山房記念館の展示を見るのは二度目ですが、書斎の再現展示室では「こんな所で書いていたんだな」と改めて感慨を深くしました。前回見た時は机周りに置いてある本の量に驚くばかりだったのですが、作品を一つ書くに

もあれほどの資料に当たっていたのだらうなと考えると、漱石ってやっぱりすごい人ですよ。

——当館の展示が新たなインスピレーションの源になれば嬉しい限りです。

谷口 僕もどんどん各地の文学館を訪れて知識を深め、若い人と文学の架け橋になるようなゲームにしていければと思います。今後も新たな文豪やイベントがリリースされますし、各文学館とのタイアップも予定されているので、引き続き『文豪とアルケミスト』にも、近代文学にも注目してもらえると嬉しいです。



文豪とアルケミスト×新宿区

令和元年 7月30日(火)～9月8日(日)

漱石山房記念館と新宿歴史博物館で『文豪とアルケミスト』の描き下ろしイラストや解説、等身大パネルの展示を行いました。漱石山房記念館では、夏目漱石、芥川龍之介、正岡子規、久米正雄、泉鏡花の5人のキャラクターを展示しました。2施設を巡ってスタンプを集めていただいた方に、オリジナルグッズをプレゼントする周遊イベントには、2000人を超える方にご参加いただきました。

今回のタイアップイベントがきっかけで来館した方からは、「キャラクターのパネル展示だけでなく、漱石山房記念館の展示室も観覧したことで、漱石をはじめとした文豪の知識を深めることができた」という声を多くいただきました。



開催期間 令和元年 7月30日(火)～9月8日(日)
会場 ▶ 新宿区立漱石山房記念館・新宿区立新宿歴史博物館
主催 新宿区 DMM GAMES
〒160-8592 新宿区文化観光産業部 文化観光課 TEL: 03-5273-4126 FAX: 03-3209-1500
開館時間: 土・日・祝日を除く 9:30～17:00

文豪とアルケミストとは？

DMM GAMES (PC ブラウザ / IOS / Android) にて好評配信中の文豪転生シミュレーションゲーム。2016年11月にPCブラウザ版、2017年6月にアプリ版を配信し登録者数は現在までに100万人を突破。キャラクターに史実の関係性を反映させ、現世に転生し再会したらどうなるのか、同じ時代に生きていながら会えなかった人達が実際に会ったらどんな関係を築くのかをコンセプトにゲームが作られている。2020年1月18日(土)より、さいたま文学館の太宰治展にてタイアップ予定。

スタンプを集めた方に
プレゼントした
オリジナル
グッズ

※オリジナルグッズの引換は
終了しています。



クリアファイル 裏面



クリアファイル 表面



缶バッジ



泉鏡花



芥川龍之介



夏目漱石



久米正雄



正岡子規

漱石山房記念館

所蔵資料の紹介

ゆずる

松岡譲あて

芥川龍之介はがき

(松岡・半藤家資料)



No.2

今年、昭和44(1969)年7月22日に亡く

なった松岡譲の没後50年です。松岡譲(1891

1969)は、夏目漱石の長女筆子の夫で、

当館の半藤末利子名誉館長の実父です。漱石晩年

の門下生となり、その態度で漱石から「越後の哲

学者」と呼ばれました。第一高等学校時代の同級

生・芥川龍之介らと、東京帝国大学在学中の大正

5(1916)年、第四次『新思潮』を立ち上げ、

将来を嘱望されましたが、一般的には、寡作で不

遇な作家として知られます。代表作に『法城を護

る人々』全3巻(1923〜26年)などがあり

ますが、後半生は漱石に関する研究を続け、最近

の読者なら『漱石の印税帖』でその名前を知って

いるかもしれません。

さて、今回紹介する資料は、大正5年10月8

日、松岡譲(当時は善譲)が芥川龍之介から送

られたはがきです。文中、芥川が褒めちぎった

「青白端溪」は、第四次『新思潮』第4

号の10月号に掲載された、松岡25歳のと

きの作品です。青白端溪という硯の逸品

をめぐる、所有者の老漢詩人とそれを欲

しがる客との緊張感溢れるやり取りを描

いています。骨董に通じた松岡の面目躍

如たる作品で、これを読んだ芥川は、松

岡の力量に脱帽し、興奮しながらはがき

を認めました。「ぐづぐづしてはあられ

ない：あしたから勉強だ」。率直な芥川

の感想に、芥川・久米正雄・成瀬正一、

そして松岡ら、漱石の門下を集った若い

才能の胎動を感じることが出来ます。

松岡の評伝を書かれた関口安義氏は、

「後の彼の作風の特徴となる重厚な筆致

が早くも顔を出している。ここには何か

を生まずにはいられない鬱勃たる作家精

神が脈打っているのだ。」(『評伝 松岡

譲』)と評しています。「青白端溪」は、『松

岡譲 三篇』(EDI叢書、2002年)

もしくは、国立国会図書館デジタルコ

レクション『地獄の門』(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/977863>)で読む

ことが出来ます。死後50年を迎え、改め

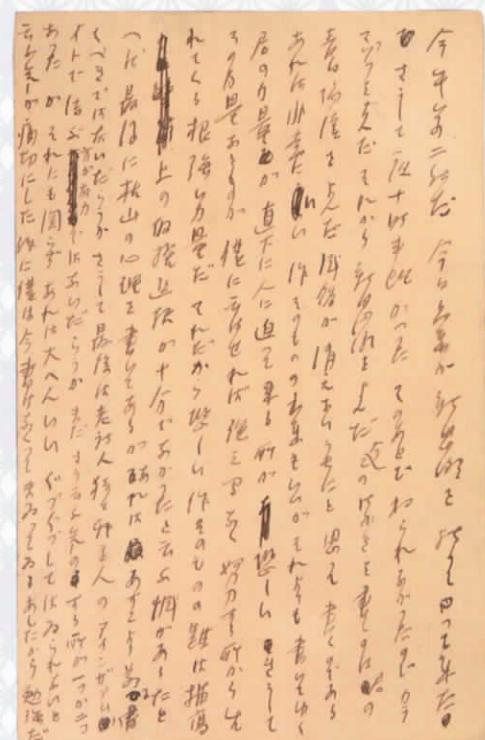
て松岡譲の作品に脚光が当たること

でしょう。

本資料は、平成30年、半藤末利子名誉

館長より新宿区に寄贈されました。

(漱石山房記念館学芸員 今野慶信)



松岡譲あて
芥川龍之介はがき
大正5(1916)年
10月8日

今年前二時だ 今日久米が 新思潮を 持ってやって来た

さうして夜十時半頃かへった そのあとで ねられなかつたので カラ

マゾフをよんだ それから 新思潮をよんだ 今のはがきを書くのは君の

青白端溪をよんだ感銘が 消えないうちに 思って 書くのである

あれは非常にいい 作そのものの出来もいいが それよりも 書いてゆく

君の力量が 直下に人に迫つて来る所が恐い さうして

その力量なるものが 僕に云はせれば 絶え間なく 努力する所から 生

れてくる根強い力量だ それだから恐い 作そのものの難は描写

上の取捨選択が十分でなかつた云う憾がある たと

へば 最後に枯山の心理を書いてあるがあれはあすこより前に書

くべきではないだらうか さうして最後は老詩人狩々軒主人の アインザムハ

イトで結ぶ方が有力ではないだらうか まだ さう云ふ氣のする所が一つか二つ

あったが それにも聞らず あれは大へんいい ぐづぐづしてはあられないと

云ふ氣が痛切にした 殊に僕は今書けなかつてまるつてゐる あしたから勉強だ



特 別 展 報 告



漱石山房記念館特別展 「救い出された文学コレクション」

— 巨理町・江戸家資料の世界 —

令和元年9月18日(水)～11月24日(日)

宮城県巨理町荒浜地区の江戸時代以来の豪商・江戸家に伝わる「江戸家資料」は、4代目江戸清吉が収集した、明治から昭和までの小説家・劇作家・詩人・歌人・政治家の原稿・書簡・掛軸・その他から構成された、貴重な個人コレクションです。2万点にも及ぶ資料群は、平成23年3月11日の東日本大震災に伴う津波により被災し、文化財レスキューの活動によって救出されました。資料の一部は保存処理がなされ、現在、巨理町立郷土資料館で保管され、毎年1回の展示会で公開しつつ、研究も進められています。本特別展は、「江戸家資料」の中から、夏目漱石の作品の中で、漱石山房原稿用紙を使用したことが確認できる最も古い小説「文鳥」の入稿原稿(明治41年)を展示の目玉としました。「文鳥」原稿に関しては、江戸清吉と漱石の門下生・小宮豊隆との書簡のやり取りも紹介、その他、鈴木三重吉・芥川龍之介・久米正雄・森田草平・津田青楓など漱石山房に集った門下生たちの原稿・書簡・掛軸、その他、泉鏡花や国木田独步・田山花袋など新宿ゆかりの文学者たちの原稿・書簡も展示しました。これ以外にも、森鷗外や斎藤茂吉の書簡、父・勝小吉の屋敷が四谷にあり、新宿とも由縁のある勝海舟の書状も展示紹介しました。

展示のもうひとつの柱として、映像「わたしたちの巨理」(巨理町立郷土資料館編、10分)を放映し、今なお復興途上にある東北・巨理の文化と歴史、そして修復作業により、ようやく展示が出来た漱石書簡を通して、東日本大震災における文化財レスキューの活動の様相も併せて紹介しました。特別展を開催するにあたり、ご協力賜りました関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

共催 新宿区・新宿区教育委員会
後援 宮城県巨理町
協力 巨理町立郷土資料館
特別展図録
「救い出された文学コレクション」
— 巨理町・江戸家資料の世界 — 28頁
好評販売中! 200円(税込)

特別展記念講演会①

「木曜会が生んだ『文鳥』 — 暗示のリレーとは何か —」

令和元年10月26日(土)

文筆業・元龍谷大学国際文化学部教授の佐々木英昭氏を講師にお迎えし、「木曜会が生んだ『文鳥』 — 暗示のリレーとは何か —」という演題で講演していただきました。漱石の短編小説「文鳥」は、漱石門下生の鈴木三重吉「千鳥」「山彦」など、先行して発表された自他作品からの影響があることを、構造的類似からご指摘いただきました。予定していた時間があつという間に過ぎてしまったと感じるくらい、内容の濃い時間となりました。



特別展記念講演会②

「巨理町の文化財レスキューと巨理町の未来」

令和元年11月10日(日)

巨理町立郷土資料館学芸員の鈴木朋子氏と、東京国立博物館学芸研究部長の田沢裕賀氏の両名を講師にお迎えし「巨理町の文化財レスキューと巨理町の未来」という演題で講演していただきました。鈴木氏からは被災した巨理町の復興の様子を、田沢氏からは文化財レスキュー活動の一員として活動された時の様子や、自治体と連携しながら被災した文化財を保護する難しさなどの興味深いお話を伺いましたが、多くの質問が飛び交いました。



活動報告

イベント報告

開館2周年記念イベント 講演会 「いま漱石が面白い 主要な漱石作品を読み直す」

令和元年9月22日(日)

漱石山房記念館の開館2周年を記念して、東京大学名誉教授の小森陽一氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。

「吾輩は猫である」などの漱石作品中にあらわれる歴史認識について、カーライルの『衣装哲学』などを例に、斬新な視点の解説をいただきました。漱石が生まれた頃から作品が書かれた頃までの、日本と欧米の時代背景を丁寧に追うことで、作品を読み解く手がかりを得られた講演会でした。

ユーモアあふれるお話に笑いが絶えない2時間で、多くの参加者から「楽しかった」という感想をいただくとともに、「漱石の感じていた時代の空気をわかりやすくお話いただき、漱石作品の読み方の参考になった」という感想もいただきました。



文学連続講座「『三四郎』から『それから』へ ～西洋・日本・東京・故郷を考える～」

第1回：令和元年10月19日(土) 第2回：令和元年11月16日(土)

漱石山房で執筆された「それから」が新聞に掲載されて110年を迎えることを記念して、武蔵大学名誉教授の大野淳一氏を講師にお迎えし、文学連続講座を開催しました。

第1回は「『三四郎』：問題の発見・追求・混迷～『三四郎』のそれから～」として、「『三四郎』の登場人物の関係性を丁寧に読み解きながら、作中だけでなく、その後の三四郎たちについても思いを巡らせました。

第2回は「『それから』：問題の継承・発展・拡散～『それから』のそれから～」として、小説を書き始める前の漱石の文章を参照し、三四郎や代助の行動への影響を検証するなどして、漱石作品の深さを味わいました。

参加者からは、「講義内容が断定的ではなく、聴く者に考えさせる様なところが良かった」という感想をいただきました。



ミュージアムショップ 漱石山房記念館オリジナルグッズ 新商品販売中!

来館記念として、ここでしか買えないものをもっと欲しいというご要望にお答えするため、漱石山房記念館では特徴あるミュージアムグッズの企画、製作に取り組んでいます。この秋からは新しい商品が2種類、仲間入りしました。

ミニトート「吾輩は猫である」(2色)：各800円(税込)

橋口五葉が装丁した、夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』初版本上編の表紙デザインをもとに、トートバッグを作成しました。お弁当を入れるのにもびったりなミニサイズ。内側にはポケットも付いていますので、携帯電話やハンカチなど、すぐに取り出したいものを入れるのに便利です。持ち手部分にはキーホルダーを付けられるループ付き。ナチュラルとネイビーの2色からお選びいただけます。



活版印刷メモ帳「夢十夜」(2色)：各500円(税込)

夏目漱石「夢十夜」より第一夜の文章を抜き出してデザインし、活版印刷で製作したメモ帳です。中のメモ用紙には「百年待つてみて下さい」の一文と、漱石山房記念館の前庭に植えてあるトクサをイメージした飾り罫をあしらいました。印刷業は新宿区の地場産業の一つです。今回は漱石山房記念館のすぐ近くの榎町にあり、大正6年創業で新宿区地域文化財の佐々木活字店に製作を依頼しました。活版印刷ならではの独特な風合いをお楽しみいただけます。表紙は青と白の2色、それぞれ限定500部の販売です。



●冬のおすすめメニュー



CAFE SOSEKI
カフェ・ソセキ



レモネード ¥550(税込)
グリーンティー ¥500(税込)

CAFE SOSEKIでは、明るく爽やかな雰囲気の中、漱石ゆかりのメニューを楽しむことができます。漱石の作品や関連書籍を手に取りながら、ゆっくりお過ごしください。

営業時間：10時～17時30分(ラストオーダー17時)

漱石にまつわる書籍もミュージアムショップで販売しています

漱石山房記念館を閲覧するなかで気になる作品を見つけたら、すぐに読んでいただけるよう、ミュージアムショップでは夏目漱石の文学作品をはじめ、漱石にまつわる書籍も販売しています。過去に開催した特別展の図録も販売していますので、展示を見逃してしまった方はぜひお買い求めください。



特別展図録

『漱石と鈴木三重吉 広島のか計正文との交流を軸に』700円(税込)

表紙の写真から

表紙の写真は、熊本県と新宿区の共催により、以前当館で展示された竹あかりの様子です。竹あかりとは、竹に穴をあけて中にライトを灯すオブジェのことです。漱石にちなんだ猫模様の竹あかりや、竹あかりでつくるタワーなどが設置され、明るく華やかに記念館を演出しました。



夏目漱石は明治29(1896)年、旧制第五高等学校(現在の熊本大学)の英語教師として熊本に赴任しました。熊本での暮らしは、4年3か月にも及びます。この間漱石は結婚し、長女を設け、人生の大切な節目を迎えます。また、後に発表する作品に影響を与える様々な経験を熊本でしています。このような漱石を通じての縁があったことと、熊本地震の復興支援への感謝を伝える場を設けたいという熊本県の想いから、漱石山房記念館での竹あかりによるライトアップイベントが企画されました。

今年も熊本県と新宿区が共催し、当館前庭にて竹あかりの展示を12月3日(火)から12月27日(金)まで開催しています。休館日も含め16時30分から20時まで点灯していますので、幻想的な雰囲気をお楽しみください。



編集後記



今号の特集記事「ゲームでひろがる文学の可能性」では、この夏、新宿区とのタイアップイベントが実施されて大好評だったゲーム『文豪とアルケミスト』のプロデューサー、谷口晃平氏をお招きしてお話を伺いました。台風の影響で交通機関が復旧していない中、石川県から漱石山房記念館までお越しいただきましたこと、あらためて深く御礼を申し上げます。『文豪とアルケミスト』では10月から松岡譲が新キャラクターとして登場し、漱石ゆかりの文豪がますます充実してきたようです。

12月18日(水)～3月1日(日)は「マンガ大賞2017」を受賞した『響～小説家になる方法～』と新宿区がタイアップしたスタンプラリーを実施します。若い世代の方にもこのようなゲームや漫画をきっかけとして漱石山房記念館に足を運んでいただき、夏目漱石に親しんでいただくことで、漱石の文学が次の世代にも受け継がれていくことを願っています。

令和元年12月～令和2年3月

イベントカレンダー

※イベントの詳細・募集期間・応募方法は当館ウェブサイト等でご確認ください。

12月

漱 3日(火)～2月24日(月・休)

《通常展》

テーマ展示 高浜虚子没後60年 漱石と高浜虚子
—「吾輩は猫である」が生まれるまで—

他 3日(火)～27日(金) 16時30分～20時

※18時閉館、入館は17時30分まで

竹あかり(漱石山房記念館前庭のライトアップ)

主催:熊本県 共催:新宿区

協力:漱石山房記念館

問合せ:熊本県知事公室広報グループ

TEL 096-333-2027 FAX 096-386-2040

区 18日(水)～3月1日(日)

新宿区×「響～小説家になる方法～」スタンプラリー

1月

漱 4日(土)～5日(日) 10時～17時30分

新年来館者プレゼント

区 9日(木) 14時～16時

九日会 第4回 子孫が語る漱石の弟子たち

講師:秋山夏子氏(小宮豊隆5女)、鈴木潤吉氏(鈴木三重吉子孫)、松根敦子氏(松根東洋城親族)

※募集終了

区 12日(日) 14時～16時30分

一日館長イベント(一日館長任命式、記念館内視察、来館者お出迎え、講演会「漱石先生の魅力」)

一日館長:出久根達郎氏(作家) ※講演会は募集終了

2月

漱 9日(日) 13時～16時30分

2月9日朗読会

朗読:神楽坂朗読サロン、近代文学をたずねて～沙羅の木～、フォーエバーリーディング、ふみのしおり(新宿歴史博物館ボランティア朗読の会)

3月

漱 1日(日) 14時～15時30分

ひなまつり朗読会

朗読:ふみのしおり(新宿歴史博物館ボランティア朗読の会)

漱 3日(火)～5月6日(水・休)

《通常展》テーマ展示「松岡・半藤家資料展」(仮)

漱 22日(日) 9時～12時

第2回文学さんぽ(場所未定)

解説:漱石山房記念館ガイドボランティア

※要事前申込

問合せ先

漱 …漱石山房記念館 TEL 03-3205-0209 FAX 03-3205-0211

区 …新宿区文化観光課文化資源係

TEL 03-5273-4126 FAX 03-3209-1500

他 …各主催者へ直接ご連絡ください。



Access

【電車】東京メトロ東西線「早稲田駅」1番出口より徒歩10分／都営地下鉄大江戸線「牛込柳町駅」東口より徒歩15分

【バス】都営バス(白61)「牛込保健センター前」より徒歩2分

※駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。

- 所在地…新宿区早稲田南町7番地
- 休館日…月曜日(月曜日が休日の場合は、直後の休日でない日)
12月29日(日)～1月3日(金)
- 開館時間…10時～18時
(入館は17時30分まで)

新宿区立漱石山房記念館

TEL: 03-3205-0209 FAX: 03-3205-0211 <https://soseki-museum.jp/>

編集・発行 新宿区立漱石山房記念館(公益財団法人新宿未来創造財団)